

【簡易説明書】

※本冊はとりあえず遊びたい！という方のための説明書です。

あくまで簡易版なので正確なルールが知りたい場合は詳細説明書をご覧ください。

1. ゲームの目的と勝利条件（詳細説明書の該当ページ：P02、12、）

各プレイヤーに配られた手札（10枚）をルールに従って出していきます。（順番は時計回り）

最初に手札がなくなった（0枚になった）プレイヤーがそのゲームに勝利します。

1回のゲームを1本として、2本先取したプレイヤーが全体の勝利者です。

2. ゲームの準備（詳細説明書の該当ページ：P02）

1. 通常ルールで遊ぶ場合、以下にある上級ルール用カード（4種類）を抜いて箱に戻してください。

次にヒントカード（4種類）を脇によけ、山札を作ります。（合計46枚）



【上級ルール用カード4種類】 ⇒ 箱に戻す

【ヒントカード4種類】 ⇒ 見たいプレイヤーは見る

ヒントカードは一部ゲームの攻略、ネタバレを含むので見たいプレイヤーだけが見るようにしてください。

2. 各プレイヤーに10枚ずつカードを配ります。

3. じゃんけんなど適切な方法でスタートプレイヤー^(※)を決めます。

※スタートプレイヤー：最初にカードを出せるプレイヤーのことです。トランプゲームでいうところの「親」のようなものです。

3. ゲームの流れ（詳細説明書の該当ページ：P04）

1. スタートプレイヤーがカードをプレイ^(※)し、「ひとつの数」を作ります。（※プレイ：カードを手札から出すこと）

この数が「素数」になるようにプレイしましょう。カードは1～3枚プレイすることが出来ます。

【1枚のカードで数字を作る場合】

数字カードに書いてある数がそのまま、あなたのプレイした数字となります。



【2枚のカードで数字を作る場合】

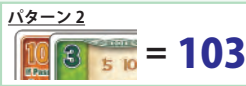
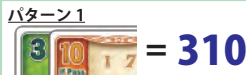
数字カードを並べて「ひとつの数」をつくります。

例えば「3」「10」の2枚をプレイしたい場合は2通りのパターンがあります。

パターン1：「310」（3を1枚目、10を2枚目として出した場合）

パターン2：「103」（10を1枚目、3を2枚目として出した場合）

この場合、310は素数ではないので、103として出しましょう。



【3枚のカードで数字を作る場合】

3枚のカードをプレイするには2つの制限があります。数の作り方は2枚のときと同じです。

条件1：すべてのカードが1ケタの数字カードである（1～9）

条件2：3枚出し可能アイコン*（)を持つカードが1枚以上含まれている

例：「3」「7」「9（アイコンあり）」の3枚で「379」としてプレイ。

※アイコンの詳細説明はウラ面にあります

【補足】カードプレイ前にやってもよい行動

自分の手番開始時に山札から1枚だけカードを引くことが出来ます。（もちろん引かなくても良いです）

手札が増えると上がりが遅くなりますが、場合によってはとても重要な行動になります。

例えば、手札で素数が作りづらいと感じたらカードを引いて状況を変えると良いでしょう。

【素数ってなに？】

素数とは「1と自分以外で割り切れない数のこと」です。

例えば「5」は1では割りきれませんが、「2」「3」「4」では割り切れず、自分つまり「5」で割り切れるので素数ということです。一方、「4」は2（自分以外の数）で割り切れるので素数ではありません。

出した数が素数かどうか分からないよ！という方も安心ください。分かる人のほうが少ないです（笑）

2. プレイした数字が素数かどうかを判定します。判定方法はいくつかあるので好きな方法を選んでください。

オススメ ・素数判定員をしてくれる人が居る ⇒ 別紙「素数判定表」でチェックしてもらいましょう！

・スマホがある ⇒ 詳細説明書に記載されている「素数判定アプリ」でチェック出来ます！

・上記2つとも無理！ ⇒ 自分で「素数判定表」を見てチェックしましょう。（他の数は見ないようにしたほうが楽しいかも？）

※ 判定の結果プレイした数字が素数では無かった場合

⇒ 出したカードを全て手札に戻し強制的にパスとなり、次プレイヤーの手番になります。（それ以外のペナルティはありません）

3. 手番は時計回りに行います。各プレイヤーは**スタートプレイヤーがプレイした枚数と同じ枚数で、前のプレイヤーがプレイした数より大きい素数**をプレイしなければなりません。

今の手札では大きい素数がプレイ出来ない、あるいはプレイしたくない場合は「パス」を選んでください。（パスをしたからといって山札からカードを引く必要はありません）

4. 他プレイヤーが全員がパスしたら、場のカードは全て流れ一番大きな素数をプレイしたプレイヤーが次のスタートプレイヤーになり、新しく1～3枚のカードをプレイします。

一度パスをしても他のプレイヤーが1人でもプレイした場合、もう一度手番は回ってくることに注意してください。
場が流れるのはあるカードに対して全員がパスした場合だけです。（詳しくは詳細説明書を見てね）

4. 特殊なカード（詳細説明書の該当ページ：P08）

・3枚プレイ可能（） についている数字カード：「2」・「4」・「5」・「6」・「8」・「9」

オモテ面で説明しているようにこのカードが1枚でも含まれていると3枚プレイが可能になります。

・ドロー2（） についている数字カード：「10」

このカードが最後にプレイされている時にパスした場合、山札から2枚カードを引かなくてはなりません。（出したカードが素数でなかった場合も強制パスなので、効果を発揮します）

・ストップ（） についている数字カード：「12」

このカードをプレイした場合、そのプレイヤーの手番で強制的に場が流れます。

その後、ストップをプレイしたプレイヤーをスタートプレイヤーとして、新しくカードをプレイし始めます。


5. 素数のヒント（詳細説明書の該当ページ：P15）

【1枚プレイ時】


カードの左右の色で素数かどうか分かります。


緑色は素数のカード、オレンジ色は素数ではないカードです。

【2枚プレイ時】

カード中央部  に書いてある数字はそのカードと2枚の組み合わせで素数になるカードです。



 このカードは「1」「6」のいずれかと組み合わせた時に素数になるということが分かります。
この場合は3通りの組み合わせがあります。（1と組み合わせた「17」「71」 6と組み合わせた「67」）

 このカードに書かれていない組み合わせで成立するカードの種類です。このマークが沢山あるカードと組み合わせれば、自信が無い数字でもひょっとしたら素数になる…かも？



素数



素数
ではない